

歳を取ると膝が痛い…令和5年2回の膝の手術

茂木 良一

歩いていてもズキズキとした痛みが左膝に出たのが1月。

近くの整形外科でレントゲンを撮りましたが、若干の変形。シップと低周波治療を勧められました。

2月、3月と暇に任せて毎日通院し、低周波を流しますが、一向に改善されません。痛み止めの注射やりました。ヒアルロン酸注入もやりました。その時だけしか効果がありません。

そこで、4月に大きい病院に通院。レントゲン、MRI、CTと撮影しましたが、良く分かりません。

5月、入院して膝内鏡手術を受けることにしました。

予定入院期間は5日。土日の関係で7日目に退院しました。

手術内容は、膝のお皿の両側に5ミリ程の穴を開け、カメラとメスを入れて膝の中の状況を見て、半月板の先端部を薄く削って整形、膝内にあった硬膜の破片を摘出しました。手術は全身麻酔で行い、時間にして1時間弱ぐらいだったようです。（麻酔で4時間位寝ていましたから、正確には分かりません）全身麻酔は、年齢からくるものか、生活習慣病からくるものか分かりませんでしたが、麻酔から覚めて、酸素マスクのせいか喉がカラカラ。水を飲めるまでの時間が厳しかったです。

術後、医師から人工関節を入れることを勧められました。既に、骨と骨が擦れて、痛みが出ているとのことでした。

9月、再び入院して左膝の人工関節置換の手術を受けました。右足は8年前に人工関節にしていますので、それほどの不安はありませんでした。見ていた訳ではないので、どんな手術か想像でしかありませんが、膝の正面を15センチ切り、靭帯はカット。上下の骨の断面を削り、チタン製の人工関節を入れて接着、お皿を元の位置にずらして切ったところを縫って完了ってところでどうか。2時間足らずの手術です。

目覚めたときには、また喉の渇きに苦しみました。内視鏡手術と違い、術後は、酸素マスク、心臓にモニター、指先に血中酸素濃度計、膝に冷風機を付けられ、痛みがひどい時にボタンを押すと自動的に少量の麻酔薬が注入される器具を持たされました。以前に右膝を人工関節にしたときは、エコノミー症候群になることを防ぐため、足裏にポンプのような器具を付けられ、何秒かおきに土踏まずを押されましたが、今回は弾性ストッキングだけでした。

そんな身動きできない状況で我慢できない痛みのときは、ボタンで麻酔薬をちょっと入れ、24時間。翌日の午後に、全ての器具が外され、病室に移されました。

そして、その翌日、車いすに乗せられ、リハビリの部屋に連れられ、リハビリ開始です。

手術した足は、パンパンに腫れ、自力で車いすの足置きに乗せることもできない状態なのに、理学療法士さんに足をマッサージされながら、時々、グイッと曲げられ、「ウッ！」と痛みに耐えるようリハビリ。切ったところが熱を持つので、アイスノンで冷やします。

車いすから松葉杖、そして、売店でT字杖を買ってきてくださいと言われるまで約10日。入院してから2週間でリハビリ運動を書いたチラシを渡され、自宅で頑張ってくださいと言われ、杖を突いて退院しました。

人工関節は機能的に120度強まで曲がるように設計されているとか…。真っすぐ立って膝を伸ばして0度、椅子に腰かけて90度ですから、正坐は180度曲がるため、出来ません。和式トイレもダメ、コンビニの前でウンチ座りをして屯すこともできません。日常生活を送るうえで困ったことは、庭の草むしり位でしょうか…。

膝の痛い方、ちょっと手術してみませんか？人工関節は20年以上もつそうですから、皆さんなら天寿を全うするまで持ちますよ。

